

## 「旅行を振り返って」

馬場 ヨシコ<sup>1)</sup> 近藤 ミツオ<sup>1)</sup> 奥野 藍<sup>2)</sup>

1) スマイル永生ご利用者 2) スマイル永生 理学療法士

はじめに

永生会在宅総合ケアセンター主催の旅行も今年度で 5 回目を迎えた。今後はできるだけ多くの新規利用者様に利用して頂き、実際利用された方は次の外出機会につながるような旅行にしていくことが課題となっている。そこで今回実際旅行に参加された利用者様に①旅行を通しての体験を振り返っていただくとともに②多くの方々に旅行の良さを伝えるとともに、今後の新規利用者様の旅行参加のきっかけになるような作品を制作していただいた。

「行きたい 行けない 行けるかも」

永生会在宅総合ケアセンター企画のリハビリ一泊旅行に 4 回参加させて頂きました。

病気になり退院できることが決まった時にすごく旅行に行きたいと思いましたが、片麻痺を持った状態では「行けない」とあきらめました。でもその反面、どこか遠いところに「出かけたかった」「いつもと違った景色が見たい」とも思っていました。

この頃、永生会在宅総合ケアセンター企画のリハビリ一泊旅行の企画を知りました。この時、「行けない」から「行けるかもしれない。」と思い、平成 20 年初めて、長野の浅間温泉旅行に申し込みをし、実際参加する事が出来ました。実際行って不安な部分もありましたが、たくさんのスタッフの方々のサポートで不安なく楽しく参加させて頂きました。この旅行をきっかけに旅行はとても良いリハビリの一つと感じました。

今回 4 回目の旅行で秩父旅行に行ってきました。一日目は秩父の人気ホテル『美山』で昼食後、初秋の山道をバスは登り、冬桜の宿「神泉」に到着しお風呂にまた露天風呂へと入りました。豆腐作りをその後体験し、宴会と笑いと美食を楽しみました。

二日目は静かな山に囲まれた画家・詩人の星野富弘氏の絵画が展示されている富弘美術館を訪れました。絵画の鑑賞後はティールームにてお茶とケーキをいただきました。

帰ってきた頃には出発前の不安もクリアしていました。

他の参加者も楽しかったと喜んでいらっしゃいました。今回の旅行で『杖』『車いす』『サポート』『自身の気持ち』があれば旅行を楽しむことが出来ると感じました。

馬場 淑子

「再び秩父路へ」

平成 23 年 9 月 7 日。永生会在宅総合ケアセンター企画のリハビリ一泊旅行の出発だ。

今度で 5 回目を迎える。

私は毎回参加させて頂いているが、今回は前回と同じ場所に再び訪れることとなる。

秩父神竜湖を下に望む「冬桜の宿 神泉。」往路は前回と同じだが、昨日まで降っていた雨で道路事情に変化あり、神竜湖の裏側の道を経て目的地へと。

狭い道路を抜けて、目新しい景観の中を、下久保ダム道路を経ずに冬桜の宿へ。

懐かしい景色が飛び込んでくる。

温泉での入浴を満喫した後、夜は楽しみの恒例の宴会。前回同様の豆腐作りが始まり、参加者による黒田節の車椅子舞踊、民謡、我らのマドンナによる「天城越え」の熱唱、それにスタッフによる白鳥（黒鳥？）の湖の大乱舞等々。

一寸、アルコール不足の気味はあったが、大団円を迎えて今夜はお開き。

翌日は次の目的地桐生へ。当地の桐生織物を見学、昔懐かしい機織り過ぎ去りし日の織娘たちの労苦等。銘仙の肌触りに彼女たちの身過ぎ、世過ぎがしのばれる一刻であった。更に最終目的地、富弘美術館へ。

富弘氏の生い立ちの転じに触れ、その生涯の波乱に満ちたエピソードに驚くと共に、キリスト教に入信された課程を知り、クリスチャンの私としても感無量の思い一入であった。

信ずるままに生きる。到底凡夫たる私等及ばぬものであるが、それなりに考えさせられるものがあった。

帰路は予定通りの路を八王子へ。

本当に楽しい一日だった。ありがとうございました。

近藤 光雄